

豊田市における ヤングケアラー支援 の検討について

福祉部福祉総合相談課、子ども部次世代育成課



ヤングケアラーとは

法令上の定義はありませんが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされています。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

ヤングケアラーの実態

(愛知県ヤングケアラー実態調査結果 2022年3月結果公表)

区分		対象	回答状況
アンケート調査	児童・生徒	県内公立小中高等学校（2割）の小5、中2、高2	30,597人 / 37,728人 【回答率 81.1%】
	学校	県内すべての公立小中高高等学校	1,197校 / 1,573校 【回答率 76.1%】
インタビュー調査		元ヤングケアラー	8人
		相談支援機関等	25機関



うち、豊田市在住の対象者

豊田市在住の対象者

区分	対象	回答状況
アンケート調査 児童・生徒	小5（409人）、中2（203人）、高2（524人）	1,136人

家族の中にお世話をしている人の有無

対象		世話をしている人 いる	世話をしている人 いない	無回答
小学5年生		16.7%	81.6%	
中学2年生		11.3%	87.4%	
2 高 年 校 生	全日制	7.1%	92.2%	
	定時制	11.0%	87.2%	
	通信制	20.5%	79.5%	

家族の世話をしているためできていないこと（複数回答）

世話をしている家族がいる		やりたけど、できていないこと（複数回答）
小学 5年生	16.7%	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時間がとれない（11.2%） 睡眠が十分にとれない（10.7%） 勉強をする時間がとれない（7.3%） 友人と遊ぶことができない（7.3%）
中学 2年生	11.3%	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時間がとれない（12.4%） 勉強をする時間がとれない（9.0%） 睡眠が十分にとれない（8.7%） 友人と遊ぶことができない（8.3%）
高校 2年生 (全日制)	7.1%	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時間がとれない（12.2%） 勉強をする時間がとれない（9.4%） 睡眠が十分にとれない（7.7%） 友人と遊ぶことができない（7.5%）

お世話をしている頻度（日数）

対象		ほぼ毎日	週3～5日	週1～2日	1か月に数日
小学5年生		35.6%	13.6%	15.4%	8.8%
中学2年生		33.7%	14.3%	13.5%	9.2%
2 高 年 校 生	全日制	30.5%	15.4%	16.3%	10.0%
	定時制	36.1%	22.2%	11.1%	11.1%
	通信制	—	—	—	—

平日にお世話をしている時間（1日あたり）

対象		1日3時間未満	3～7時間未満/日	7時間以上/日	平均値（時間）
小学5年生		28.7%	11.5%	8.7%	4.22 h
中学2年生		19.2%	11.8%	4.7%	3.66 h
2 高 年 校 生	全日制	28.3%	10.6%	3.5%	2.79 h
	定時制	36.1%	13.9%	2.8%	2.22 h
	通信制	—	—	—	—

あなた自身が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

対象		あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
小学5年生		2.9%	78.0%	17.5%	
中学2年生		2.2%	82.5%	14.4%	
2 高 年 校 生	全日制	1.7%	83.6%	13.7%	
	定時制	4.9%	75.5%	16.8%	
	通信制	7.7%	59.0%	33.3%	

「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか

対象		聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 よく知らない	聞いたことはない	無回答
小学5年生		8.9%	15.8%	74.4%	
中学2年生		13.7%	15.6%	69.9%	
2 高 年 校 生	全日制	16.8%	16.1%	66.1%	
	定時制	9.8%	14.4%	74.0%	
	通信制	23.1%	10.3%	66.7%	

調査結果から抽出された課題 ~県の報告より~

ヤングケアラーという言葉や問題の認知度が低く、相談につながらない

(主な結果) 「ヤングケアラー」の内容を知っている割合 小5 8.9%、中2 13.7%、高2 (全日) 16.8%
元ヤングケアラーインタビュー「お手伝いの延長という感覚で、ヤングケアラーという自覚はなかった」

家族のことは話したくないため、相談したことがある子どもの割合が低い

(主な結果) 家族を世話する子どものうち相談経験者の割合 小5 29.7%、中2 14.5%、高2 13.6%
元ヤングケアラーインタビュー「家族のことを気軽に相談できる場所が欲しい」

家庭内の問題として表面化しにくく、支援が届いていない家庭が多い

(主な結果) ヤングケアラーがいるか不明な学校のうち、問題が表に出にくく把握が難しい割合
小5 94.9%、中2 92.4%、高2 97.1%
ヤングケアラーを把握している学校のうち、支援したいが支援できない割合
小5 32.3%、中2 26.3%、高2 23.8%

当事者の集いの場や自由に使える時間、学習サポートを希望する子どもが多い

(主な結果) 中2の家族を世話する子どもが希望すること
【1位】学習のサポート 17.2% 【2位】自由に使える時間16.8%【3位】話を聞いてほしい13.3%
元ヤングケアラーインタビュー「自分と同じ境遇の人と話すことで共感してもらえることがうれしく、落ち着ける」

「ヤングケアラー」支援の方向性

県の実態調査の数字を参考にしつつも、アセスメント等を通じて真に支援が必要な子どもを適切な支援につなげることが重要

抽出された課題～県より～

ヤングケアラーという言葉や問題の認知度が低く、相談につながらない

家族のことは話したくないため、相談したことがある子どもの割合が低い

家庭内の問題として表面化しにくく、支援が届いていない家庭が多い

当事者の集いの場や自由に使える時間、学習サポートを希望する子どもが多い

目指す支援の方向性 ～当市～

① 社会的認知度の向上

子ども自身の権利擁護として周知
ヤングケアラーに関する正しい理解の促進

② 関係機関の連携（相談から支援へ）

重層的支援体制推進事業を活用した関係機関の連携

③ 早期発見・把握

早期発見・把握から福祉サービスへのつなぎ
アセスメントシートの作成

④ 適切な支援

適切な制度の紹介や、子どもを孤立させないために子どもの居場所等の活用
支援制度の拡充、新規事業必要性の検討

ヤングケアラー支援事業計画（取組項目）

		事業内容
企画等	重層的支援会議定例会（担当者級）	1回目 5月26日 参加者13人、9課+社協 2回目 6月16日 参加者11人、8課+社協
	事例検討会（コーディネーターによる）	1回目 8月19日（予定） 2回目 9月13日（予定）
支援事業	① 社会的認知度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利啓発事業におけるヤングケアラーの啓発 ・教員向け研修・調査（R5実施に向け調整中） ・支援体制の周知も含めた啓発（R5以降実施予定）
	② 関係機関の連携 （相談から支援へのつながり）	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の役割理解・ヤングケアラー支援における事業整理 ・支援体制の整理・明確化（相談→発見→支援の流れを具体化） ・重層的支援会議を活用したケース支援実施
	③ 早期発見・把握	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関におけるヤングケアラー支援の実態把握 ・アセスメントシートの作成 ・アセスメントシート活用促進 ・支援者向け研修会の開催（R5年1月予定）
	④ 適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが孤立しないための居場所の整理、紹介 ・ヤングケアラーへの生活支援、同じ境遇にある子どもたち同志の共感の場の必要性について検討（ピア・サポート）

ヤングケアラー支援事業 全体スケジュール（案）

		令和4年度			令和5年度			
		5月	9月	3月	4月	9月	3月	
企画等	重層的支援会議定例会	会議	会議	会議	会議	会議		
	事例検討会		事例検	事例検				
支援事業	① 社会的認知度の向上		「子どもの権利啓発事業」でヤングケアラー概念の啓発			教員向け研修・調査 支援体制の周知も含めた啓発		
	② 関係機関の連携	各課役割の明確化・事業整理		支援フロー図・ガイドライン作成				
		支援体制の整理・明確化（流れ）						重層的支援会議を活用したケース支援
	③ 早期発見・把握	各課の支援実態把握		アセスメントシート作成		支援者向け研修会開催 アセスメントシート活用促進		
④ 適切な支援	事例検討会を通じて支援制度の整理			支援制度の拡充、新規事業必要性の検討			新規事業の検討・立ちあげ	